

スポーツ観光による地域活性化に関する一考察・新潟県十日町市

——健康系ツーリズムによる地域活性化の要因・拠点論——

Study on regional activation by Sport tourism : Factor-based Theory of Regional activation by health-based tourism

辻 本 千 春*

TSUJIMOTO Chiharu

Tokamachi city is located in the inland of Niigata prefecture and a snowy region. Textile industries were thriving from a long time ago, but the production value has been fallen to 5% of its peak in recent years. In addition, population decline is applied, a sense of crisis for the future of Tokamachi citizens has been growing. Croatia, one of the 2002 Japan South Korea co-hosted World Cup participating countries, chose to camp in Tokamachi city. After this matter, Tokamachi citizens moved to establish a sports support organization consisting of some sectors citizen related. And then sports and sports tourism have been promoting the regional activation. I consider the background and the result in up to launch the sports commission.

キーワード：スポーツ観光 (sports tourism), 要因・拠点 (factor, base), 社会的効果 (social effects), スポーツコミッション (sports commission), ソーシャル・キャピタル (social capital)

1. はじめに

スポーツ・ツーリズム推進連絡会議（2011）によるとスポーツ・ツーリズムは『スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対して、旅行先の地域でも主体的にスポーツに楽しむことができる環境の整備、そして MICE 指針の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の誘致を包含した、複合的でこれまでにない「豊かなスタイルの創造」を目指すものである。』としている。また、スポーツ・ツーリズム推進基本方針によると、(1) スポーツとツーリズムの融合で目指すべき姿として、①「より豊かなニッポン観光の創造」(スポーツを通じて新しい旅行の魅力を創り出し、我が

国の多種多様な地域観光資源を顕在化させ、訪日旅行・国内観光の活性化を図る)、②「スポーツとツーリズムの更なる融合」(更に意図的に融合させることで、目的地へ旅する明確な理由を作り出し、新しい価値・感動と共に、新たなビジネス・環境を創出)、(2) スポーツ・ツーリズムに期待する効果として、インバウンド拡大等の観光振興のみならず、スポーツ立国戦略」と強調したスポーツ振興はもちろん、経済増進、産業振興などの幅広い効果、(3) スポーツを活用した観光光まちづくりとして、スポーツと観光の垣根を越えて地方公共団体内や各種団体間で連携・協働し、大会・合宿招致、プロスポーツ誘致などを観光まちづくりの一環として政策に位置づける必要があるとしている。

本論は、十日町市の取り組み¹⁾をスポーツ観光の視点から論じたものである。なお、本論ではスポーツ観光とスポーツ・ツーリズムを同義語として使っている²⁾。

*大阪観光大学観光学部

2. スポーツ観光（ツーリズム）の位置づけ

原田（2009）によると、スポーツ観光はヘルスツーリズムとの関係性が高く、スポーツ・ヘルスツーリズムという概念を用いているが、その根拠は、図-1にあるようにヘルスツーリズムの中の楽しみの要素が多い形態5にレジャーが含まれ、また、図-2によると旅行者が健康な場合はウェルネスツーリズムとよび、その中のレジャーにスポーツも含まれる。健康系ツーリズムのひとつとしてスポーツ観光は重要な位置を示していることがわかった。

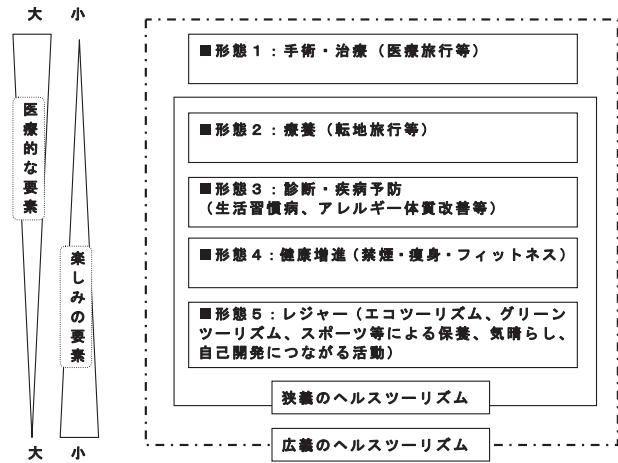


図-1 ヘルスツーリズムの形態
出所：日本観光協会（2010）

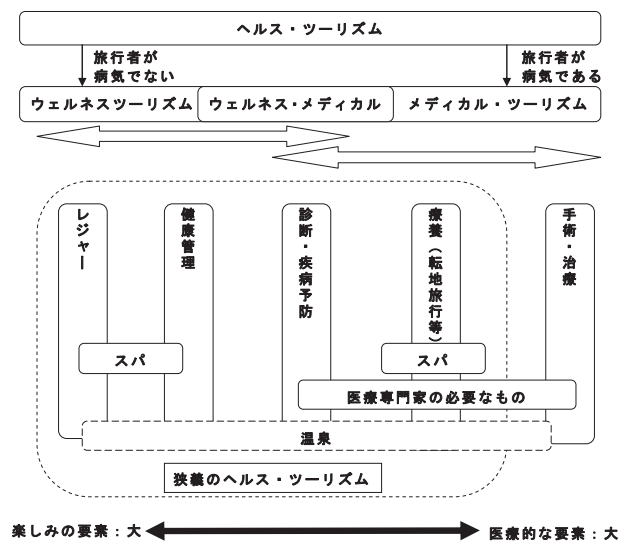


図-2 ヘルスツーリズムの概念図
出所：羽生（2011）を参考に筆者加筆作成

3. 十日町市の概況

十日町市（2014）によると、十日町市は、住居地でも2m以上の雪が降る日本有数の豪雪地帯で、この豪雪からこの土地ならではの文化が生まれ、産業が育まれた。森林の有機質を豊富に含んだ水と夏季の寒暖の差は、おいしいお米や野菜を作り出し、また、これら農産物を加工したそばや地酒も格別といわれている。豪雪地帯での農耕生活から端を発した織物は、「十日町明石ちぢみ」をはじめとした織物産業へと発展し、現在も染めと織りを生かした技術で、十日町市の産業新興の一翼を担っている。昔の生活は、今のように交通網も発達しておらず、機械・器具もなかったため、生活には苦労が伴った。しかしながら、このことが、人々の互助の気持ちを育み、絆を強くし、結いの精神が醸成されたといえる。この精神を受け継いだ十日町市民は、来訪者に対してまるで家族のように温かく接する心を持っており、これが今なお残る原風景と相まって、十日町市ならではの魅力を作り出している。

4. 要因と拠点・・・スポーツ観光の背景

十日町市とスポーツの関係を考えてみたい。筆者は辻本（2011）あるいは辻本（2013）でヘルスツーリズムにおける要因と拠点の重要性を述べたが、スポーツ観光が広義のヘルスツーリズムにふくまれると考えるとスポーツ観光においても要因や背景がありキーパーソンも存在することが重要である。さらに拠点が場所だけではなく、それが組織であっても、地域活性化につながること



写真-1 十日町市内
出所：筆者撮影（2012年12月20日）

になる。

まず、要因はいくつか挙げられる。一つ目は、十日町市とスポーツのかかわりである。他都市に先駆けて、1984年に「スポーツ健康都市」を宣言しているが具体的な動きはまだそのときにはなかった。ただ、豪雪地帯であり、水分を含んだ雪質がベタ雪であることで、北海道のサラサラ雪と異なり負荷が大きいことでクロスカントリーなどは盛んで全日本を代表する選出を輩出している歴史はあった。

また、合併前も合併後も十日町市が保有する体育館、運動場・施設の数是非常に多かった。十日町市の体育施設は2011年4月現在の数字で、43施設もある。その内訳は屋内競技は10か所、陸上は1か所、野球は16か所、テニス5か所、サッカー2か所、ゲートボール1か所、水泳(プール)4か所、クロスカントリースキー4か所の計43施設となっている。ちなみに泉佐野市(2014)によれば、泉佐野市の体育施設数は12か所となっている。十日町市は泉佐野市の約4倍弱の体育施

設を持っており、いかに、十日町市の体育施設数が多いかが分かる。しかし、それぞれの施設の管理者が、市スポーツ振興課、各施設、公民館、宿泊施設等に分かれており、予約の際にはそれぞれに連絡を取らざるを得ない状況であった。

2つ目の要因として、1987年にリゾート(総合保養地域整備)法が施行され、全国にリゾート施設が開発されたが、十日町市でも1988年に当間高原リゾートの開発が開始されたことがあげられる。1996年(平成8)に当間高原リゾートホテル・ベルナティオが開業したのも大きな要因のひとつである。

さらに、3つ目に経済的要因がある。基幹産業の織物産業の衰退、人口減少、高齢化率の上昇があり市民も対策をとる必要を感じていた。つまり、1982年に絹織物の出荷額が580億円あったものが2011年にはわずか36億円まで落ち込んでいる(十日町市ヒアリング2012年12月20日)。これら複数の要因が重なり、住民に危機感が生まれていたのである。

5. スポーツと住民の大きなかかわり

2002年日韓共同開催のワールドカップの開催が決まったことで、十日町市は1998年にワールドカップのキャンプ地に立候補した。1996年開業のホテル・ベルナティオの「グラウンド」を市の予算補助で整備して、寒さに強い芝(冬柴)を全面に敷き、サッカーもできるグラウンドに整備した。

2001年に入ると、複数の国がグラウンドを候補地として視察に訪れ、そのうちスペインとポーランドが仮契約をしてくれたが、2002年の1月の組み合わせ抽選で2カ国とも韓国での試合のグループに入り、この契約は消滅した。十日町市および住民は残念がったが、ポーランドの紹介でクロアチアが興味を示し、契約することができたのは幸運であった。施設的环境や地域住民の熱意がポーランドに伝わっており、その情報がクロアチアにつながったといえる。

いよいよ2002年日韓ワールドカップ開催が開催され、キャンプ地運営には多くの地元ボランティアが参加して、①世界の人々とのふれあいや、②国際交流の楽しさを実感できたことが十日町市にとって大きな財産になった。マスコミによる情報発信で認知度が上昇し、日本国内のみならず、海外にも十日町市の名前が広がったのも大きな収穫であった。

スポーツ観光には「する」「観る」「支える」の三つの



写真-2 十日町市吉田クロスカントリー競技場
出所：筆者撮影(2012年12月21日)

要素が大きいといわれるが、このケースでは「支える」つまりクロアチアチームの活動を支える「ボランティア」や「地元住民の協力」が大きかった。木田（2007）によると、スポーツイベントにおける経済的効果は多く取り上げられるが、社会的効果は積極的に取り上げられないことが多い。しかし、人材の育成、スポーツの振興、地域アイデンティティの醸成、地域コミュニティーの形成、交流の促進、地域情報の発信等社会的効果も多く見られると述べている。

また、堀（2007）によると、スポーツがまちづくりに役立つ理由は、①スポーツが健康と結びついており、「する」スポーツは「健康」というニーズにつながる、②スポーツの普遍性の高さが上げられ、ルールに基づいているため、コミュニケーションがとりやすい、③「する」だけでなく「観る」事も楽しい、という点が上げられる。つまり、①体を動かし、②ルールによって普遍性を保ち、③観ることも楽しい、スポーツの特徴は、①健康につながり、②地域住民あるいは世界規模でコミュニケーションが取れる、③町に持ち込みやすく楽しそうに見せることができる、という「まちづくり」のツールの特徴と重なっている。①「健康」は個人のことで、②コミュニケーションは他者との関係、③まちの中は地域のことでもちを魅力的にすることにつながる。

6. スポーツによるまちづくり

(1) 総合型地域スポーツクラブ「ネージュスポーツクラブ」

もともと、祭りが大好きといわれる市民がスポーツに関わる喜びを感じたことで、2004年の国土交通省のモデル事業として、教育スポーツ関係者にアンケートを実施することになった。その結果、スポーツを核とした地域づくり地域活性化に賛成が96.1%となり、地域住民のスポーツに取り組み姿勢が確信に代わり、そのための組織の必要性、組織への期待が非常に高いことがわかった。つまり、スポーツを通じて地域活性化する組織への期待が高まったのである。

そして、2005年に市民および行政から活性化の一つの指針が出て、「総合型スポーツクラブ」を立ち上げる話が出て、新たなコミュニティーを作ることになったが、行政からの話がほとんど進まなかった。

そういう状況のもと2006年3月に市民有志で総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を立ち上げることにになり、行政を含まない市民有志83名で立ち上げた。こ

の段階では行政からの補助金は受け取らず、サッカーくじTOTOからの若干の助成金を受けてスタートとさせている。

この時点でのポイントは、①「体力づくり」と②「まちづくり」を分けていることにある。体力づくりを中心にスポーツクラブを地域に根付かせて、さらにスポーツ拠点としての機能を持たせることで地域活性化のためのまちづくりを進めることにした。

そして2008年4月に総合型地域スポーツクラブ「ネージュスポーツクラブ」を設立し、翌年2009年にNPO法人ネージュスポーツクラブとして法人化した。

文部科学省（2014）によると総合型地域スポーツクラブとは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、(1)子どもから高齢者まで（多世代）、(2)様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、(3)初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブをいう。つまり、3つの多様性を包含していることを指しており、一つは種目の多様性、一つは世代や年齢の多様性、そして、もう一つは技術レベルの多様性である。改めてその特徴を挙げると、以下ようになる。①単一のスポーツ種目だけでなく、複数の種目が用意されている。②障害者を含み子どもからお年寄りまで、また、初心者からトップレベルの競技者まで、そして、楽しみ志向の人から競技志向の人まで、地域住民の皆さんの誰もが集い、それぞれが年齢、興味・関心、体力、技術・技能レベルなどに応じて活動できる。③活動拠点となるスポーツ施設を持ち、定期的・継続的なスポーツ活動を行うことができる。④質の高い指導者がいて、個々のスポーツニーズに応じた指導が行われる。⑤スポーツ活動だけでなく、文化的活動も準備されている。クラブ設立の効果としては、①世代を超えた交流が生まれた、②地域住民のスポーツ参加機会が増えた、③地域住民間の交流が活性化した、等が挙げられている。

(2) 十日町市スポーツコミッション地域再生協議会

つまり、スポーツ拠点形成を目指し、スポーツを生かしての地域づくりをするためにNPO法人ネージュスポーツクラブ設立を機に、2008年5月に十日町スポーツコミッション地域再生協議会を発足させている。

この十日町市スポーツコミッション地域再生協議会のスタンスは、地域にとっての課題や組織運営の段階で、

協議会としてどのような方向性を示すかを議論していくことが目的のひとつであった。言い換えると、地域活性化の実践組織（または実験組織）として稼働させて、実際の課題を抽出することを目指した。

スポーツコミッションは、さいたま市（2014）によれば、『さいたま市は、サッカー J リーグに所属する浦和レッズと大宮アルディージャのホームタウンであるなど、スポーツに対する市民の関心が高く、入込観光客数に占めるスポーツ観戦者の割合が高いという特徴を持つ。このような環境のもと、本市では、健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現を目指すため、さいたま市は他地域に先駆けて 2010 年 4 月に「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を制定し、スポーツコミッション創設を施策の柱のひとつとして掲げている』としている。さいたま市がスポーツコミッションの必要性を強く感じたのは、これまで市内で開催されてきた各種のスポーツ大会は、各競技団体等が中心となって運営を行うケースが多く、PR 活動やツーリズム（旅行市場）関連ノウハウの不足から、「地域経済効果」の視点からは十分な準備、対応が行えていない状況があったからである。スポーツコミッション構想は、『このスポーツの分野で新たな観光・交流人口の拡大を図るため、スポーツ大会・イベントの誘致を大会主催者などへの積極的なプロモーション活動により行うとともに、大会運営における宿泊や交通の手配などをワンストップで担うことで「スポーツによる地域経済活性化のエンジン（推進機関）」として機能する体制を整備し、プロ・アマを問わず本市のスポーツに関するシティセールスや関連マーケティング活動をより効果的に展開することをねらいとしている。』と述べている。十日町市スポーツコミッション地域再生協議会の目標であるスポーツコミッション設立の目的と一致する。

十日町市スポーツコミッション地域再生協議会はテーマを「スポーツキャンプの拠点形成」として、視点は「地域づくり、地域活性化」におき、運営主体は「市民、

表-1 十日町市スポーツコミッション地域再生協議会テーマ

テーマ	視点	運営視点	不可欠要素
スポーツキャンプ拠点形成	ビジネス スポーツ・ツーリズム	事業者	社会的効果への視点
スポーツキャンプ拠点形成	地域づくり 地域活性化	市民 連携組織体	経済的効果への視点

出所：十日町市ヒアリングにより筆者作成

表-2 十日町市スポーツコミッション地域再生協議会組織

協議会	交通・・・森宮交通（株）
	宿泊・・・六箇地区旅館組合
	農業交流・・・なぐも原結いの里
	医療・・・財団法人 上村病院
	総合型地域スポーツクラブ・・・NPO 法人ネージュ SC
	ボランティア・施設活用・・・クロアチアピッチ活用事業実行委員会
	民間フィットネス・・・(有) エリア・ドゥ
	行政・・・十日町市スポーツ振興課

出所：十日町市ヒアリングにより筆者作成



写真-3 ジャパン・クロアチア・フレンドシップハウス
出所：筆者撮影（2012 年 12 月 21 日）

連携組織体」がなり、ただし、経済的効果の視点も不可欠要素として認識することを選択している。通常、まちづくりや地域活性化といった場合に社会的効果に重きを置くケースがあり、経済的視点が欠けることで持続可能な地域活性化に結びつかない事例が多いが、十日町市のケースは、地域づくり、地域活性化の「社会的効果」に重点を置きながら、かつ「経済的効果」をも視野に入れるという点が新しい取り組みであり持続可能な活動の原点にあるように思える。地域にとっても経済的効果があることで持続可能な取り組みになっている。

7. ネットワークの重要性

十日町市スポーツコミッション地域再生協議会の組織について考えてみる。

ここでのポイントは、組織の実効性を高めるため、大きな組織を最初から入れるのではなく、興味を持ち動ける組織に呼びかけてスタートした。表-2にあるように交通、宿泊、農業、医療、総合型地域スポーツクラブ、ボランティア、民間フィットネス会社、行政のメンバーでより具体的な課題を話し合い、解決することを心がけた。つまり、議論だけではなく実践をしながら検証をしていく中で、より課題が明確になり問題解決に結びついた。

今、社会科学の多くの分野で、注目を集めている概念に「ソーシャル・キャピタル」がある。ソーシャル・キャピタルとは「協調的行動を容易にすることにより社会の効率を改善しうる信頼、規範、ネットワークのような社会的組織の特徴」(宮川 2008) のことである。小長谷(2008)によるとパットナムそのほかの議論からみて、ソーシャル・キャピタルには少なくとも三つの要素からなっていると考えられている。要素①ネットワークがあること、要素②信頼関係があること、要素③互酬性・規範などがあり、サステナブルであること、の三つである。三つ目の持続可能なためには参加者がみな何らかの利益を得て win-win の関係になることが重要な要素になってくる。

また、組織としてはこの十日町市スポーツコミッション地域再生協議会がまちづくりに強いことがわかる。小長谷(2008)によると、一般の社会的ネットワークは、通常「クリーク」と呼ばれる強い紐帯から局所的な塊に分解される。一般の社会ネットワーク構造は図-3のようになり、伝統的なネットワークの中心に位置する A さんなどが大きな社会的影響力を持つと考えられているが、実は多くの場合は、クリーク内では周辺に位置し、強い紐帯を必ずしも多く持たないが、弱い紐帯、特にブリッジを多く持っている B さんのほうが社会的影響が強いことがわかってきた。つまり、B さんのようなキーパーソンは、①他のクリークを含めて、より広い情報へのアクセスを持つ、②クリーク同士の利害の調整を行う可能性を持つ、ということが出来る。十日町市スポーツコミッション地域再生協議会を例にとると、行政を含めて強固に固められた組織の中ではなく、いろいろな関係機関と弱い紐帯でつながっていることが分かる。例えば B さんのような人がいる組織は強いといえる。つまり、通常コミュニティーはクリークに他ならないが、その保守的とも思われる組織が開放的になり、ブリッジ型キーパーソンあるいは組織を受け入れたときにまちづくりは成功するといわれている。

さらに、十日町市は行政として協議会に参加しているが、オブザーバーに徹しており基本的には市の予算は使わずに事業を行っている点も取り組みとして評価できる。ただし、スポーツに関する部分でサッカーくじ TOTO の補助金を一部利用している。

十日町市スポーツコミッション地域再生協議会は、このような組織の強みを用いて「スポーツコミッション形成」への取り組みを実践した。

8. 十日町市の環境づくり・イメージづくり

(1) 環境づくり

2009 年には、受け皿としての環境づくりとしてビジョントレーニング実践講習会や地域活性化シンポジウムを開催して、地域を巻き込んだ取り組みにしている。

また、地域の中核病院である村上病院では、住民の健康維持やリハビリだけでなく、健康づくりにも役立たせるために、病院の敷地内に健康増進施設「ゆあず」を立ち上げている。たとえばトレーニングセンターではカードキーを差し込むとメニューが実行されるようになっている。また、施設にはリハビリ用の温泉プールもあり、体育館も併設している。住民だけではなく、他県からの健康診断やスポーツ合宿前後のデータ取得による体調管理等にも積極的に関与している。受け入れ態勢が整っている。

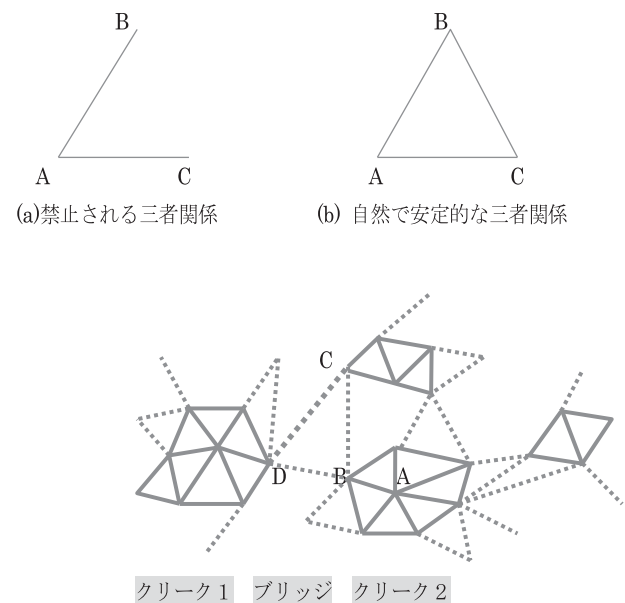


図-3 一般の社会ネットワーク構造

出所：小長谷(2008)

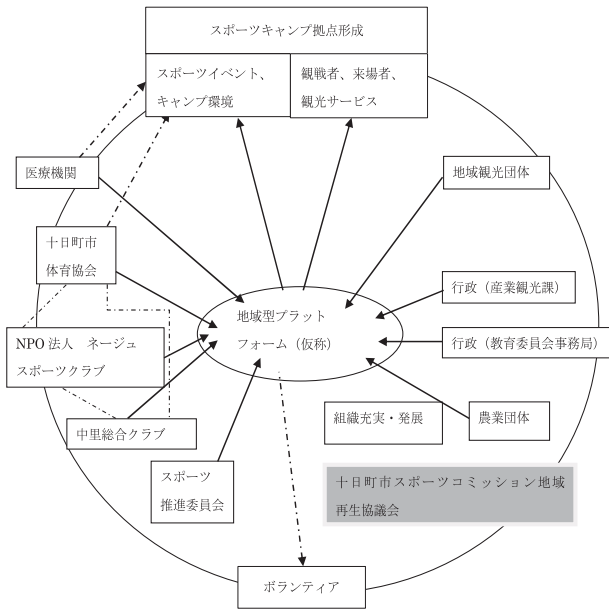


図-4 十日町市スポーツコミッション (仮称) のイメージ
出所：十日町市ヒアリングにより筆者作成

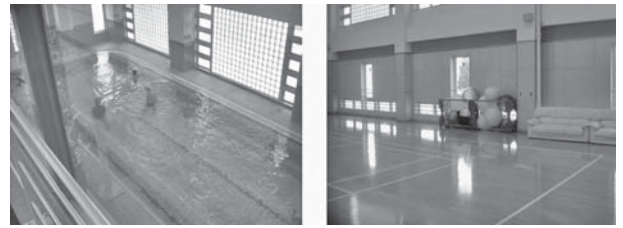


写真-6 左：ゆあーずの温水プール、右：体育館
出所：筆者撮影 (2012 年 12 月 20 日)

(2) 健康イメージづくり

十日町市では、健康なイメージを売り出すために、シャッター商店街を歩く、「まちなかまちじゅうウォーク」を実施したり、雪まつりを活用するために情報発信をしたりしている。WHO (世界保健機関) 憲章によると、健康の定義は「健康とは、身体的、精神的ならびに社会的に完全に良好な状態 (完全な肉体的、精神的および社会的福祉の状態) にあることであり、単に病気や虚弱ではないことにとどまるものではない。到達しうる最高度の健康を享受することは、人種、宗教、政治的信念、社会・経済的条件のいかんに関わらず、すべての人類の基本的権利のひとつである」とある。健康の定義に「精神的ならびに社会的」という言葉がはいっていることに注意したい。

そこで十日町市は健康づくりあるいは健康イメージを発信するために、1995 年から芸術を活用して心の健康



写真-4 上左：村上病院、上右：健康増進施設ゆあーず
出所：筆者撮影 (2012 年 12 月 20 日)

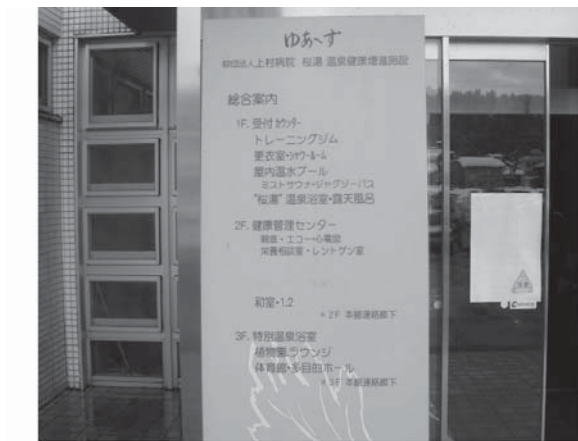


写真-5 上下とも：健康増進施設ゆあーず
出所：筆者撮影 (2012 年 12 月 20 日)



写真-7 十日町市内の石彫 (右下は雪に埋もれた石彫)
出所：筆者撮影 (2012 年 12 月 21 日)

を進めるイベントとして、「石彫のまち」をイメージしており、まちなかいたるところに石彫がある。写真-1にあるように商店街にも多くおかれており、積雪があっても見ることができる工夫がされている。

そして、十日町市（2014）によれば、隣町である津南町とともに、この自然と人々の魅力を引き出し、地域の発展につなげるため、世界最大級の屋外の現代アートの祭典「大地の芸術祭」を、2000年から3年に1度開催している。「人間は自然に内包される」を理念に、地域に内在するさまざまな価値を、現代アートを媒体として掘り起こし、その魅力を高め、世界に発信することで地域再生を目指す取組みである。十日町市は、「大地の芸術祭の里」として、これからも自然と共存するまちづくり、人々の心が通い合うまちづくりを進めている。きっかけは、里山や自然などの地域資源・文化などをアートによって発信し、地域の元気を取り戻すという壮大なプロジェクトは、ここからスタートした。

9. 十日町市スポーツコミッション地域再生協議会による検証

(1) 他団体事業受注による検証実践

表-3のように、2008年に十日町市スポーツコミッション地域再生協議会ができたことにより、キャンプ・合宿現状把握ができるようになった。利用延べ日数、利用延べ人数、利用団体とも増加している。

また、十日町市のイベント、長距離カーニバルの窓口

表-3 十日町市体育施設利用状況

年度	利用延べ日数	利用延べ人数	対前年比	利用団体
2007 平成 19	178	7,183		62
2008 平成 20	234	9,737	135.6%	76
2009 平成 21	243	9,137	93.8%	89
2010 平成 22	267	10,659	116.7%	90
2011 平成 23	313	12,067	113.2%	97

出所：十日町市ヒアリング資料により作成

表-5 十日町市長距離カーニバル 応援・観戦者数

年度	過去平均	2011	2012	増減	比率
人数	1,000	2,500	3,000	500	120%
備考	時間によって差あり		平均した観戦者数		

出所：十日町市ヒアリング資料により作成

をするようになって、出場者数が増えた。特に市外や県外からの参加者が増えている。そして、このカーニバルの応援者の人数も推計ではあるが、2012年は2011年に比べて20%伸びている。つまり、情報の窓口を一本化することでイベント参加人員や応援者が増えたことが分かった。

(2) 自主事業による検証・実践

新しいプログラム推進にも力を入れたが、スポーツキャンプ拠点として、スポーツ合宿等誘致を中心に活動しているが、スポーツイベントや新しい事業にも積極的にアプローチしており、スポーツ観光における「する」だけでなく「観る」「支える」観戦者や応援者、来場者に対する観光サービスにも積極的に取り組んだ。

10. 十日町市スポーツコミッション設立

2013年4月には十日町市スポーツコミッションが設立された。十日町市スポーツコミッション地域再生協議会の長い検証実践のもと、確証を持った形でスタートしたことになる。

十日町市スポーツコミッションの目的は「市民や団体が連携し、スポーツキャンプ、スポーツ合宿及びスポーツイベントならびにこれらに関連する事業を通して経済的効果や社会的効果を発揮させ、地域づくりや地域の活性化に寄与することを目的とする」としている。2014年7月現在、46団体が正会員となっている。

十日町市スポーツコミッション地域再生協議会で実践をしながら、課題を解決してきた組織がスポーツコミッションに移行した。

これまで図-5にあるように市外からの利用者である個人、学校、スポーツ競技団体は、手配を申し込む差異

表-4 十日町市長距離カーニバル 出場者数の推移

	2010年度		2011年度		2012年度		前年比較	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
出場者数	1,031	-	1,067	-	1,224	-	157	114.71%
内男子	650	63.05%	741	69.45%	855	69.85%	114	115.38%
内女子	381	36.95%	326	30.55%	369	30.15%	43	113.19%
内市内	226	21.92%	299	28.02%	282	23.04%	-17	94.31%
内市外	805	78.08%	768	71.98%	942	76.96%	174	122.66%
(内県外)	4	0.39%	81	7.59%	119	9.72%	38	146.91%

出所：十日町市ヒアリング資料により作成

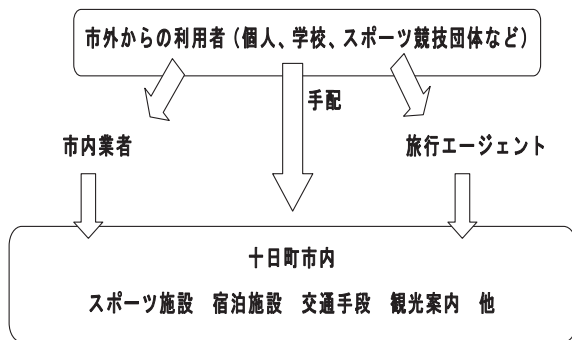


図-5 十日町市のこれまでの流れ
出所：十日町市ヒアリングより筆者作成

には、旅行会社や市内の関係業者に別々に手配を依頼するかたちであったが、複雑であり受け入れ側も情報が集約されていないケースもあり円滑に行くことが難しかった。

十日町市スポーツコミッションが設立されたことで窓口がほぼ一本化され、迅速に予約や回答ができるようになり、消費者にとって利便性が上がり、なおかつ競合他都市にも勝つことでリピートにつながる可能性が大きくなった。

11. まとめ

健康への意識と施設を含めたスポーツ環境や受入施設の充実があったが地場産業の衰退があり、それらの要因に日韓ワールドカップの共催というきっかけがあり、それによって、より住民がスポーツによるまちづくりに傾倒していったことがよくわかる。

マーケティングを説明する言葉で創造的適応という言葉がある（石井（2000））。創造的適応とはわかりやすく言うと、創造は状況を作り出す活動であるが、適応は状況に合わせて自らを変身させる行動と説明している。つまり、十日町市においても、例えば行政主導で、関係する大きな企業を集め同じ組織を作ってもうまく行かなかった可能性がある。消費者（地域住民や外からの観光客）のニーズを組みながらも新しい提案を事業として取り組んでいく姿勢が、十日町スポーツコミッションのありようをしっかりとらせていると考える。NPO 法人ネージュスポーツクラブがスポーツクラブという形で核となり、まず合宿やキャンプを取り込みながら、地域資源である宿泊施設、医療機関、スポーツ施設をうまく活用して持続可能なスポーツ・ツーリズムを進展させている。

小長谷（2008）によるとまちづくりには、ソーシャル・キャピタルの醸成も必要になるが、スポーツに取り

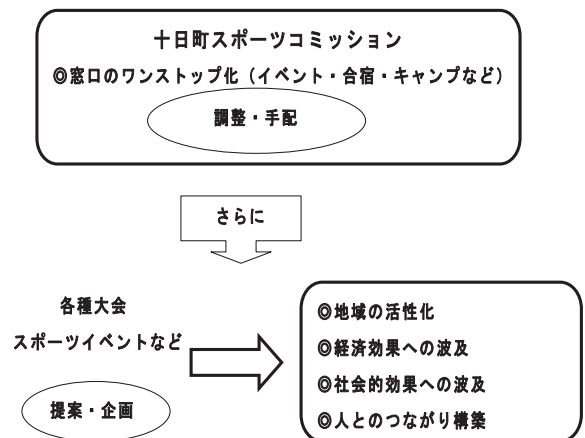


図-6 十日町スポーツコミッションの機能
出所：十日町市ヒアリングより筆者作成

組むことがそれを助けるといえる。

十日町におけるスポーツコミッション設立は、それ自体にスポーツ観光の推進や地域の経済活性化を目指す目的がある。2002 年の日韓共催ワールドカップのクロアチアのキャンプ地に立候補した時点から、毎年のように組織づくりや関係機関の調整を繰り返すことにより、地域住民がまちづくりに関して自分たちが関わることの重要性、必要性を身をもって理解したと考えられる。元々、地元が備え持った要因や拠点としての機能があったためスポーツコミッション設立とともにその過程で激しく議論して、結論を出したことがそのまままちづくりにつながっている。

【補注】

- 1) 本論は、2012 年 12 月 20 日～21 日にかけて、十日町市内の視察、調査ヒアリングをもとに作成した。
- 2) 観光庁はスポーツ観光を使用しており、会議等ではスポーツ・ツーリズムを使っているため同義語とみなす。

【引用・参考文献】

- 石井淳蔵（2000）「ブランド価値の創造」岩波書店、pp 105-106
- 木田悟（2007）「スポーツで地域をつくる」東京大学出版会、pp 116-117
- 小長谷（2008）「まちづくりと創造都市」晃洋書房、pp 50-51、pp 57-58
- スポーツ・ツーリズム推進連絡会議（2011）「スポーツ・ツーリズム推進基本方針—スポーツで旅を楽しむ国・日本」2011 年 6 月、p.2
- 辻本千春（2011）「ヘルス・ツーリズムの展開における拠点と要因に関する一考察」『日本国際観光学会論文集』第 19 号。

辻本千春 (2013) 「ヘルス・ツーリズムの拠点としての旅館活用－健康系付加価値提供御による新たな地域活性化モデル」『日本国際観光学会論文集』第 20 号。
日本観光協会 (2010) 「ヘルスツーリズムの手引き」日本観光協会、p 6
羽生正宗 (2011) 「ヘルスツーリズム概論」日本評論社、p 14
原田宗彦 (2009) 「スポーツ。ヘルスツーリズム」、大修館書店、pp 32-33
堀 (2007) 「スポーツで地域をつくる」東京大学出版会、pp 17-19
宮川公男 (2008) 「ソーシャル・キャピタル」東洋経済新報社、pp 24-25

ホームページ
泉佐野市 (2014) 泉佐野市ホームページ (2014 年 10 月 1 日閲覧) <http://www.city.izumisano.lg.jp/>
公益社団法人日本 WHO 協会 (2014) ホームページ (2014 年 10 月 1 日閲覧) <http://www.japan-who.or.jp/>
さいたま市 (2014) http://www.city.saitama.jp/004/001/001/p014024_d/fil/kihonkeikaku.pdf
十日町市 (2014) 十日町市ホームページ (2014 年 10 月 1 日閲覧) <http://www.city.tokamachi.lg.jp/>
文部科学省 (2014) ホームページ (2014 年 10 月 10 日閲覧) http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/